



緑ECO通信 7月号

編集・発行 資源循環局緑事務所 (045) 983-7611



「プラごみ削減キャンペーン～見直そう! 使い捨て～」

店頭啓発を実施しました



世界では、年間数百万トンものプラスチックが陸から海へ流出しています。流出したプラスチックは5ミリ以下のマイクロプラスチックになり海洋生物が摂取するため、生態系への影響が懸念されています。

緑区では、プラスチック問題の解決に向けて、6月11日(火)マルエツ長津田駅前店様、続いて6月20日(木)ダイエー鴨居店様において、「プラごみ削減キャンペーン」店頭啓発を、資源循環局緑事務所と緑区役所が共同で実施しました。両店舗の皆様、ご協力をいただきありがとうございました。

今、私達にできる身近な取組として、レジ袋やストローなど使い捨てとなる「ワンウェイプラスチック」の削減へ、皆様のご協力をお願いいたします。



6/11(火)

マルエツ長津田駅前店



6/20(木)

ダイエー鴨居店



食品ロス削減説明会を開催しました



6月15日(土)白山住宅集会所、6月17日(月)緑区役所において、約140名の皆様にご参加いただき、「ごみの分別説明会」を開催しました。参加者から、「ごみの水切り方法」・「食品ロス削減の工夫」・「プラスチックごみによる環境汚染」・「最終処分場の延命化」など様々な質問が寄せられ、皆様の関心の高さが伺えました。

ごみの分別等についてお困りの方は、お気軽に緑事務所までご連絡ください。

中山スポーツフェスタに参加しました



6月2日(日)中山小学校で行われた「中山スポーツフェスタ」において、「ごみと資源の出張相談会」を開催しました。暑い日差しが降り注ぐ中でしたが、大勢の方々にお集まりいただき、相談コーナーも大盛況でした。会場のごみを、子ども達がほとんど間違えることなく分別ボックスにいれている姿を見て、とても頼もしく感じました!



熱心に聞いて頂きました



水切りのご協力を!!



分別出来たかな?



ごみの分別にご協力
ありがとうございます!

第7回各地区環境事業推進委員活動報告(三保地区)

平成30年7月号から隔月(奇数月)で、緑区内11地区の環境事業推進委員の皆様の様々な活動について「緑ECO通信」で報告していただいております。(寄稿された原稿と写真を掲載します)

三保地区の人口は約15,000人であり、その中で21名の環境事業推進委員が活動しています。三保町自治会が発足した当初は、周囲が山や田畑に囲まれたのどかな地区でしたが、宅地開発が進む中で山を追われたカラスとの戦いが始まりました。今では自治会数が10以上となり、集積場所の数も約250か所となりましたが、その集積場所の多くでゴミを荒らされる被害が続いていました。三保町自治会、武蔵中山台自治会の被害は特にひどく、長年、悩まされ続けてきましたが、昨年、資源循環局のアドバイスをいただいて「ネットボックス」を設置したおかげで、集積場所でのトラブルがなくなり、地域の皆さんからとても喜ばれました。

普段、私たちの活動は、集積場所を含む町内の見回り、ゴミ拾いウォーキング、納涼祭でのゴミ分別・減量化指導などを行っています。今後は地域清掃や草刈り等にも力を入れて、三保地区だけでなく緑区が一層美しく、住みやすい街になるよう取り組んでまいりますので、ご協力をお願いいたします。



ミーティング



地域清掃へ出発



集積場所の修繕

次回は令和元年9月号新治西部地区の予定です。



ミドリんのリンポイント!



水切りでゴミも臭いもすっきり!

生ゴミの約80%は水分です。

生ゴミの水分は、腐敗や悪臭の主な原因です。ゴミを出す前に水分を減らす工夫をしよう!

その1 まずは水に濡らさない!

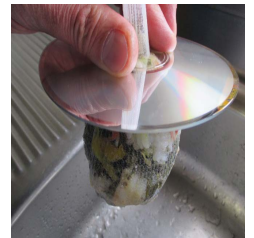
※調理中に出る生ゴミを、シンク内の三角コーナーや排水口内の水切りかごに入れると、水分をたくさん吸ってしまいます。野菜の皮などは、乾かしてから出しましょう。

その2 しばって乾かす!

お茶がらやティーバッグは、水気をしばり、乾かしてから出しましょう。

その3 ゴミ出し前にひとしばり!

たまった水分を「ぎゅっと」しばってから出しましょう。



CDで水も切れます!



水切りすると...



※嫌な臭いが減る!

※ゴミが軽くなって... ゴミ出しもラクラク!

※さらに... 効率よく焼却ができ、焼却工場の発電量がアップ!

ゴミと資源の原単位 <ひとり一日あたりの排出量>		
	31年3月	30年3月
横浜市平均	584g	605g
うち燃やすゴミ	386g	392g
緑区	571g	591g
うち燃やすゴミ	383g	391g